

大分市立大分西中学校 学力向上プラン1（8月）

学校教育 目標	ふるさとを愛し 夢と志をもって 未来を切り拓く生徒の育成 ～やさしく かしく たくましく～
育成を目指す 資質・能力	【誠実】「磨き合い、高め合う力」の育成 【自主】「学びを深める力」の育成 【活力】「たくましい実践力」の育成

	学力状況について	学習状況について
児童 生徒 の 課題	各種学力調査の分析結果から明らかになった課題 ○全国学力・学習状況調査の正答率について、国語は+2.1ポイント、数学は+2.0ポイントと、全て全国平均正答率を上回った。また、英語の平均正答数について、+0.2ポイントと、全国平均正答数を上回った。 ○大分県学力定着状況調査(5教科)の正答率について、国語は+9.5ポイント、社会は+7.7ポイント、数学は+7.3ポイント、理科は+7.5ポイント、英語は+12.6ポイントと、全ての教科で全国平均正答率を上回った。	各種学力調査の分析結果から明らかになった課題 ○国語の勉強が好きと答えた生徒は-0.6ポイント、数学の勉強が好きと答えた生徒は+2.3ポイント、英語の勉強が好きと答えた生徒は+14.3ポイントと、国語のみ全国を下回った。(全国学力・学習状況調査より) ○国語の授業の内容がよく分かったと答えた生徒は+2.0ポイント、英語の授業の内容がよく分かったと答えた生徒は+5.8ポイントと全国を上回った。一方、数学の授業の内容がよく分かったと答えた生徒は-5.2ポイントと全国を下回った。(全国学力・学習状況調査より)
	これまでの学力向上の取組に対する児童生徒の状況(授業及び授業以外の側面から) ○ノーチャイムによる主体的な行動をとることができている。(『ノーチャイム』による2分前着席を行った)生徒回答93%) ○学習態度向上プロジェクトをはじめとした生徒主体の活動を行い、高い学習意欲で授業に取り組むことができている。(『授業のめあて』を理解し、積極的に授業に参加した)生徒回答94%) ○各教科でペア活動やグループ活動における話合いに積極的に参加することができている。(『授業が分かりやすい』生徒回答89%) ○各授業において、タブレット端末を活用し、自ら課題を解決しようと取り組むことができている。(一人1台端末を活用し、自ら課題を解決しようと取り組めた)生徒回答90%)	
指導 の 状況	1 組織的な授業改善の取組状況 ○『ノーチャイム』による授業1分前入室を行った」と回答した教職員83% ○『めあて』『振り返り』を提示し、『振り返り・まとめ』を生徒自らの言葉で書かせる授業を実践した」と回答した教職員83% ○『UD・生徒指導の3機能』を取り入れた授業を1単元1時間以上実施した」と回答した教職員94% 2 その他の学力向上に向けた指導の取組状況 ○個別の補充学習を全学年で実施(定期テスト前にステップアップ質問教室を開催) ○ICT機器を最大限活用し、個別最適な学びの充実に務めた教職員89% ○授業で話合い活動等を用い、自分の考えを深めたり広げたりする場面を設けた教職員95%	

学力に関する達成指標

- 「振り返り・まとめ」を生徒自らの言葉で書かせる授業の実践率90%以上
- 『UD・生徒指導の3機能』を取り入れた授業実施95%以上
- 「授業が分かりやすい」と回答する生徒90%以上、「授業のめあて」を理解し、積極的に授業に参加した」と回答する生徒95%以上
- 全国、県、市による学力調査で、全国平均正答率+10ポイント以上
- 生徒による授業評価アンケートを毎学期末に実施(年3回)し、各項目の平均値が全項目3.5以上

	【授業改善】	【家庭・地域との協働】	
今後の 具体的 な取組	〈授業改善のテーマ・重点〉 〈テーマ〉確かな学力の定着と向上を目指した「新大分スタンダードR8改訂版」に基づく授業づくりと評価 〈重 点〉○指導と評価の一体化を図り、主体的で協働的な学びの実現による基礎・基本の定着と学力向上 ○「新大分スタンダードR8改訂版」の内容を取り入れた主体的で協働的な学び		
	〈取組内容〉 ○全教科の主体的で協働的な学びの実現に向けた単元作成と評価基準の明確化、指導と評価の一体化	〈取組内容〉 ○新大分スタンダードR8改訂版を取り入れ、UD・生徒指導の三機能を意識した授業展開 ○下位層の生徒への個別指導 ○タブレット端末を効果的に活用した個別最適な学びの実現	〈家庭・地域の取組内容〉 ○懇談会における長期休業中の課題の共有や計画表チェック等の連携 ○年4回のオープンスクールの実施
	〈取組指標〉 ○具体的な評価基準に基づく確かな見取りと生徒への還元 ○教科部会年3回以上実施する。教科指導マイスターと連携し、学力調査結果の分析、評価基準の確認を行う。	〈取組指標〉 ○「UD・生徒指導の三機能」を取り入れた授業を1単元1時間以上実施する教職員95%以上 ○「めあて」「課題」を提示し、「振り返り」「まとめ」を生徒自らの言葉で書かせる授業の実践を行う教職員95%以上	〈家庭・地域の取組指標〉 ○課題の取組状況に応じた保護者への連絡 ○保護者に向けた「すぐえる」による情報共有や学校評価アンケートの実施 ○小中合同研修会の開催
	〈検証指標〉 ○「授業の『めあて』を理解し、積極的に授業に参加した」と回答する生徒95%以上 ○「授業が分かりやすく楽しい」と回答する生徒95%以上 ○「授業で分からないことがあるときは、先生方に質問できる」と回答する生徒85%以上 ○「毎日ノートやワーク、課題プリントを期限内に提出できた」と回答する生徒80%以上		〈家庭・地域の検証指標〉 ○学校評価アンケートの実施
	【授業改善以外の学力向上の取組】 ○補充学習の実施(全学年における基礎的な問題の指導、放課後等の時間を活用した個別学習の実施) ○ICT機器を活用した授業実践の工夫(個別学習と表現活動時における各教科による実践例の共有を図る) ○ペア活動や4人班の協働学習の取組の実施(意見交換、説明、プレゼンテーション等の実施) ○教え合い学習ができる学級集団作り(西中人権宣言・ふれあいタイム(隔週実施)) ○デジタルドリルや「みんなの学習クラブ」のプリント等を用いた個別最適な学びの実現と基礎・基本の定着 ○直近の学習について振り返った上で、週末の自己の学習について、自分に合った計画を立てさせ実行させるプランニング学習の推進		